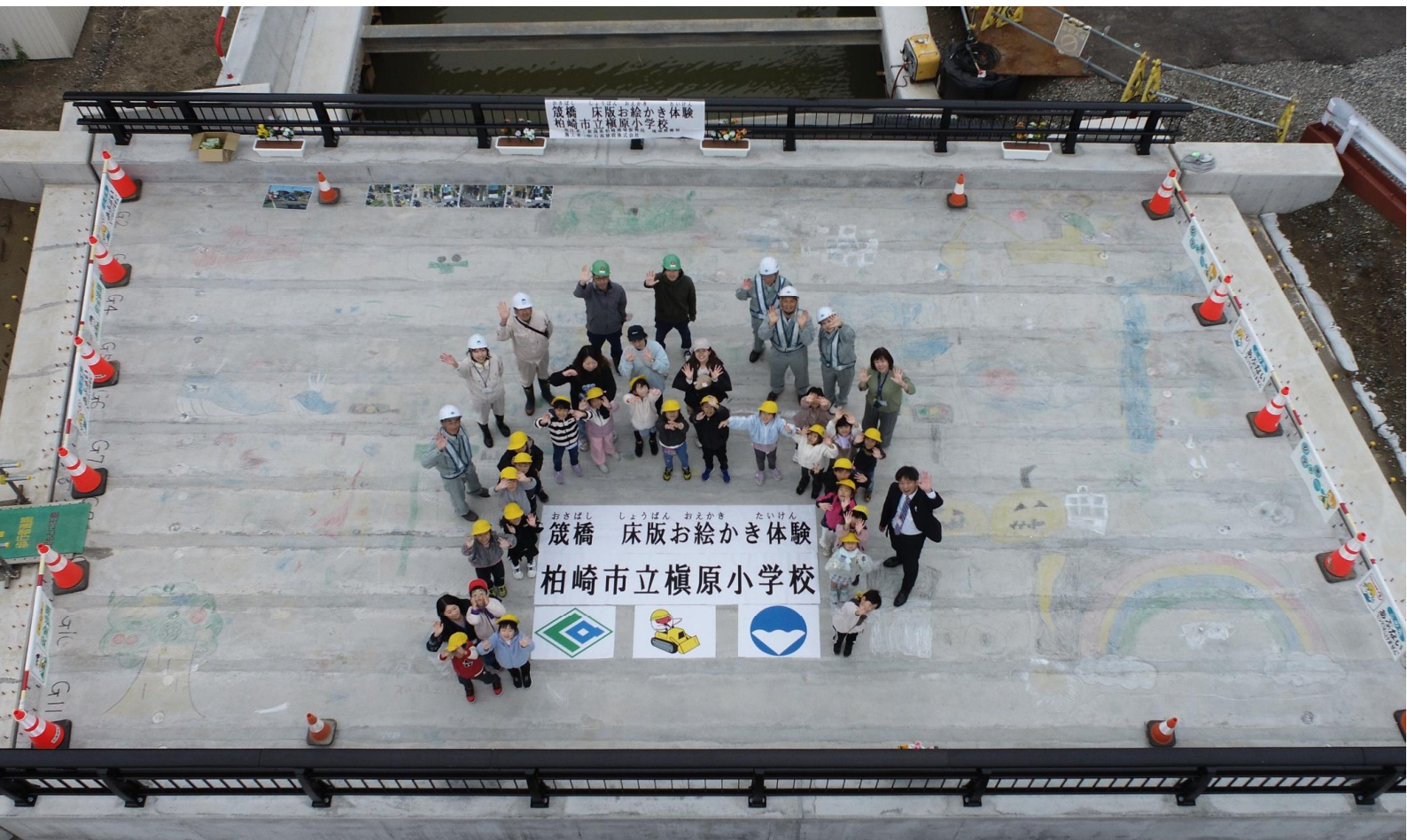




主要地方道 松代高柳線 道路災害復旧工事
(柏崎市高柳町門出)

令和8年度 柏崎地域整備部の取組



一般県道 黒部柏崎線 箆橋(おさばし)更新事業
(柏崎市春日)

管内の概要

柏崎刈羽地域は、新潟県のほぼ中央部に位置し、北東部は三島郡出雲崎町と長岡市、南東部は十日町市、南西部は上越市に隣接し、北西部は日本海に面しています。

南西から東部一帯にかけては、米山（992.6m）、黒姫山（891.0m）、八石山（518.0m）の各山系とその支脈に囲まれた山間地域であり、北西部は延長41kmの海岸線を有し、柏崎港から東側は砂丘海岸で、西側は海岸崖等が続く岩石性の崖海岸を形成し、山間部、平野部、海岸部と変化に富んでいます。気象状況の特徴として、冬季の積雪が海岸部と山間部では著しい差があり、山間部は県内有数の豪雪地帯です。

柏崎・刈羽平野の中央部は、北陸自動車道と一般国道8号・116号が縦断するとともに、JR信越本線に越後線が接続する等、交通の要衝となっています。また、二級河川の鯖石川と鶴川が管内の中央を南から北へ流下して日本海に流れ込んでおり、これら河川の下流域には、柏崎市の中心地域や水田地帯が形成されています。

当部の所管区域は、平成16年度までは柏崎市、小国町、高柳町、西山町及び刈羽村の1市3町1村でしたが、平成17年4月1日に小国町が長岡市に合併し、所管区域から外れ、同5月1日に高柳町と西山町が柏崎市と合併したことから、現在は柏崎市と刈羽村の1市1村となりました。

管内市町村の人口及び世帯数（住民基本台帳人口：令和8年2月末現在）

市町村名		面積(km ²)	人口(人)	世帯数(世帯)
柏崎市	旧柏崎市	320.95	69,138	31,940
	旧高柳町	64.53	967	559
	旧西山町	56.54	4,485	1,973
	計	442.02	74,590	34,472
刈羽村		26.27	4,206	1,691
合計		468.29	78,796	36,163

土木部基本方針

安全に安心して暮らせる、暮らしやすい新潟

近年、気候変動の影響により激甚化・頻発化する自然災害から県民の命と暮らしを守るため、被害の未然防止や軽減を図る治水対策をはじめとする「事前防災対策」の強化など防災・減災対策を推進します。

あわせて、将来にわたって県民がインフラ施設を安全に利用できるよう維持管理の高度化・効率化を推進し、予防保全型維持管理への転換を目指すとともに、安全で快適な日常生活を実現するための社会基盤の整備を進めていきます。

また、除雪や災害対応、原子力防災の取組等、地域の安全・安心の確保や社会資本の整備等を担うとともに、地域の経済と雇用を支える重要な役割を果たしている建設産業の振興に努めていきます。

- 災害から県民の命と暮らしを守るハード対策等の強化
- インフラ施設等の維持管理・補修・更新の高度化・効率化
- 県民の暮らしと命を守る道路整備
- 快適な暮らしにつながる河川環境の保全
- 原子力防災の取組
- 地域を支える建設産業の振興 等

地域経済が元気で活力のある新潟

県内外をつなぎ、物流の効率化や観光・交流の促進にもつながる高速道路等の整備など更なる拠点性向上に向けた交通ネットワークの整備を進めていきます。

また、魅力があり住みやすく暮らしやすいまちづくりに取り組み、人口減少下でも、住みやすい快適な生活環境の実現に努めるとともに、除雪体制の維持や雪下ろしにおける事故防止対策など雪によるハンディキャップのない地域づくりを進めていきます。

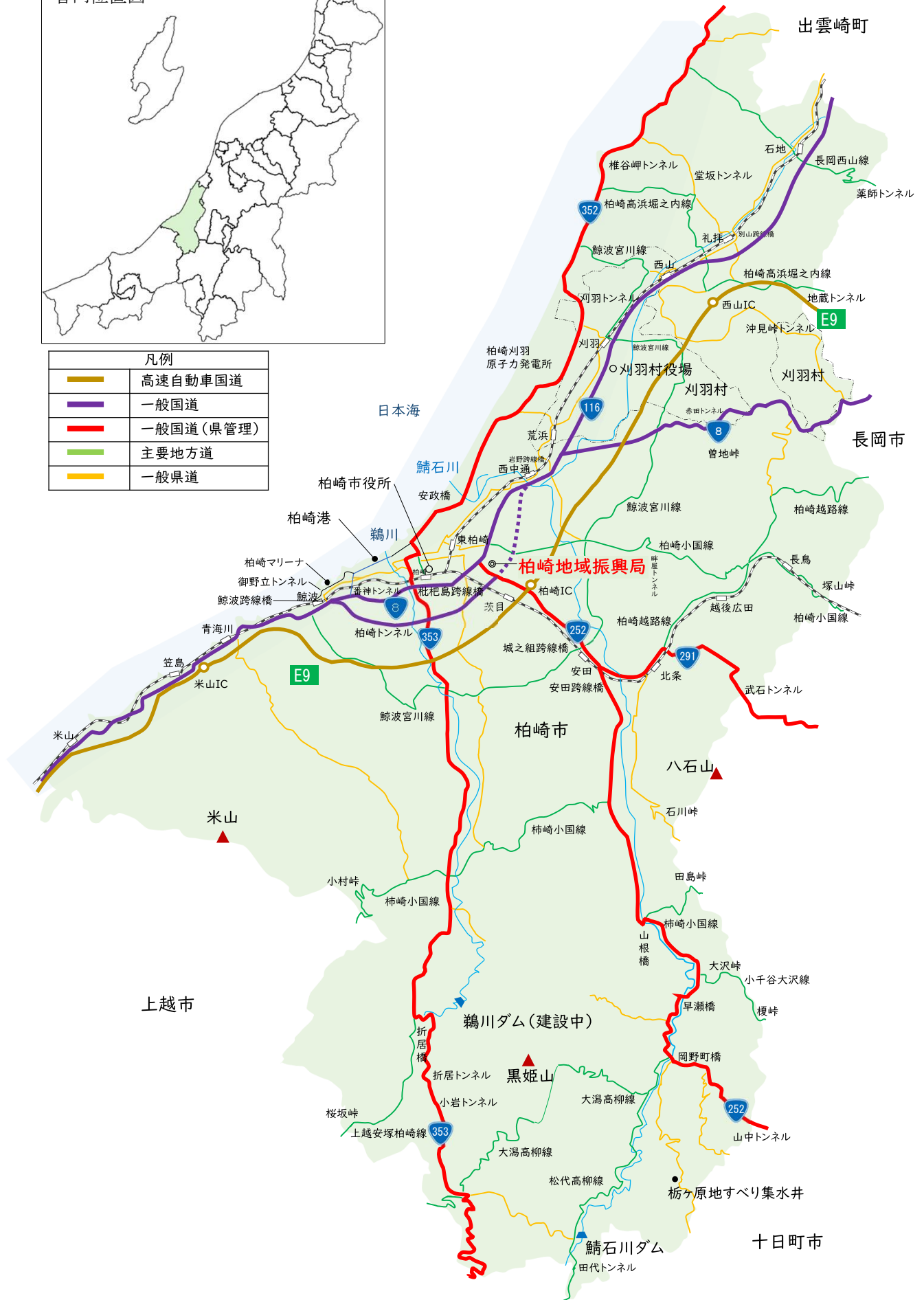
- 新潟の拠点性を向上させる高速道路等の整備
- 活力と賑わいがあり、安全に安心して暮らせるまちづくり
- 雪によるハンディキャップのない安全・安心な地域づくり 等

柏崎地域の安全で快適な暮らしを支えるため、 社会基盤の整備と維持管理に取り組んでいます

管内位置図



凡例	
	高速自動車国道
	一般国道
	一般国道(県管理)
	主要地方道
	一般県道



所管施設の概要

道路は42路線、延長316.4km、河川は58河川、延長234.0km、砂防は砂防37箇所、地すべり23箇所、急傾斜地46箇所等の各種区域指定を行っています。海岸の延長は40.8kmです。

道路

管内の中央部を北陸自動車道と一般国道8号・116号(直轄管理)が縦断し、新潟及び関西方面と連絡しています。柏崎市街地から海岸部及び内陸部にかけて放射状に、一般国道252号・291号・352号・353号が伸び、それらを結ぶ主要地方道及び一般県道と併せて地域の幹線道路網を形成しています。

管内には柏崎刈羽原子力発電所があるため、発電用施設周辺地域における公共用施設の整備促進を図ることを目的とした、電源立地地域対策交付金による道路整備も実施しています。

道路の延長及び改良率

区分	路線数	実延長(km)	改良済み(km)	改良率(%)
一般国道	4	78.2	67.7	86.6
主要地方道	11	125.8	93.5	74.3
一般県道	27	112.4	76.3	67.9
計	42	316.4	237.5	75.1
新潟県計	516	5,373.3	3,697.1	68.8

新潟県計には新潟市管理分は含まない

令和7年4月1日現在

河川

管内には、一級河川と二級河川を合わせて計58の管理河川があります。

柏崎市を縦断して日本海までほぼ平行に流れる鯖石川と鵜川の2河川は、流域面積が大きく、下流市街地において氾濫区域が重複している特に重要な河川です。

近年では、昭和53年、平成7年、平成16年、平成17年の豪雨により大きな浸水被害が発生しています。このため、鯖石川、鵜川などで河道拡幅等の改修事業を実施しています。

河川数及び延長

区分	河川数	延長(m)	備考
一級河川	3	10,950	黒川、油田川 ほか
二級河川	55	223,112	鯖石川、鵜川 ほか
計	58	234,062	
新潟県計	1,164	4,900,991	令和6年3月31日現在

令和8年3月31日現在

ダム

鯖石川は蛇行が激しく、洪水や濁水が頻発していたため、柏崎市高柳町田代地内に鯖石川ダムを建設し、昭和49年度から運用を始めています。

鵜川流域では、たびたび洪水が発生し大きな被害が生じていたため、鵜川流域の洪水被害を軽減するとともに、既得用水の安定化や河川環境保全を目的とした鵜川ダムを建設しています。

ダム名	形式	総貯水容量(m3)	目的
鯖石川ダム	重力式コンクリートダム	6,000,000	洪水調節・流水の正常な機能の維持
鵜川ダム(建設中)	中央コア型ロックフィルダム	4,700,000	洪水調節・流水の正常な機能の維持

砂防・地すべり・急傾斜地

管内には、地形や地質上の特性から土石流危険渓流、地すべり地、急傾斜地が多くあります。また、山間地域は、急峻な地形で豪雪地となっており雪崩危険箇所も多くあります。

これら箇所の災害発生を未然に防止するために砂防ダム等の施設整備（ハード対策）と併せて、土砂災害防止法に基づく警戒避難体制等（ソフト対策）を実施することにより、安全な生活基盤の確保と県土保全に努めています。

管内の砂防・地すべり・急傾斜地指定区域及び面積

区 分	指定地域数	延長(m)	面積(ha)	備 考
砂 防	37	47,350	1,070.55	成沢、武納川、石黒川、ほか
地すべり	23	—	843.85	栃ヶ原、赤田北方、田島 ほか
急傾斜地	46	—	55.12	苗代、番神、岡田、滝谷 ほか

令和8年3月31日現在

管内の土砂災害警戒区域の指定数

区 分	指定数
急傾斜地	573（うち特別 528）
土石流	273（うち特別 89）
地滑り	136
計	982（うち特別 617）

令和8年3月31日現在

管内の雪崩危険箇所数

区 分	箇所数
雪崩危険箇所	109

令和8年3月31日現在

海岸

管内は、西側が日本海に面しており、約41kmの海岸線を有しています。柏崎港以西は岩石海岸となっており、海岸線の岩礁地が景勝地として知られ、美しい海岸景観を形成しています。

また、柏崎港以東は直線的な砂丘海岸であり、海水浴等のレクリエーションの場として多くの人に利用されています。砂浜の保全と回復を主体とした海岸整備を進め、防護・環境・利用の調和のとれた海岸管理を行っています。

海岸延長及び海岸保全区域延長

種 別	海岸延長(m)	海岸保全区域延長(m)	備 考
港湾海岸	5,515	2,036	柏崎港
建設海岸	26,972	17,629	原発区域(占用)2,242mを含む
漁港海岸	8,306	4,839	石地、荒浜、高浜、笠島、鯨波
計	40,793	24,504	
新潟県計	634,800	364,341	※令和6年度版海岸統計

令和8年3月31日現在

港湾

柏崎港は、昭和46年7月に国際貿易港として開港指定を受け、中越地域の拠点港として発展し、令和3年7月に開港50年を迎えました。

現在、海洋レジャーの拠点である柏崎マリーナの静穏度向上及び港内埋設防止のために防波堤の整備を図っています。

名称	施設概要
柏崎港	埠頭岸壁7バース872m（水深-5~-11m） 埠頭物揚場8箇所（水深-2~-4m）
柏崎マリーナ	泊地15,544m ² （水深-2.5~-3m） 棧橋103バース209m（水深-2.5~-3m） 収容隻数303隻

災害から県民の命と暮らしを守るハード対策の強化 水害から地域を守る ～ 河川改修事業

鯖石川

鯖石川は、その源を十日町市蒲生の頸城丘陵に発し、長鳥川、別山川などと合流して日本海に注ぐ、流域面積277.0km²、流路延長48.1kmの二級河川です。

鯖石川は、昭和21年から本格的な河川改修事業を行ってきましたが、治水施設の整備はいまだに不十分な状況です。このため、別山川合流点より上流の流下能力が不足している区間について、河道内掘削や築堤、護岸などの整備を進めています。

また、支川の別山川は、現在、河川整備計画区間6.1kmのうち下流1.7kmが概成し、雁柄橋上流にて河道拡幅や築堤などを進めています。



鯖石川の状況
(柏崎市中田地内)



別山川の状況
(刈羽村新屋敷地内)

鵜川

鵜川は、その源を柏崎市尾神岳に発し、田屋川、上条芋川などと合流して日本海に注ぐ、流域面積108.7km²、流路延長24.6kmの二級河川です。

鵜川は、昭和25年から抜本的な河川改修事業を行ってきましたが、度重なる水害に見舞われたため、上流の鵜川ダム建設と併せて河川改修を進めています。

現在、河川整備計画区間7.4kmのうち下流5.0kmが概成し、柏崎市野田地区の整備を進めています。

また、支川の横山川は、内水被害の低減を図るため、排水機場のポンプを増強し、現在、上流の河道拡幅や築堤などを進めています。



鵜川の状況 (柏崎市野田(奇島)地内)



横山川の状況 (柏崎市横山地内)

災害から県民の命と暮らしを守るハード対策の強化

水害から地域を守る～ ダムの管理・建設

鯖石川ダム（管理）

鯖石川ダムは昭和48年に完成し、昭和49年以降、洪水調節による洪水被害の軽減と、渇水期の用水不足を補い、流域住民の悩みの解消に大きな役割を果たしています。

また、貯水池にダムの上流から土砂が流れ込み、予想を超えるスピードで土砂が堆積しているため、堆砂対策として、平成23年から融雪出水を利用した通砂による堆砂抑制を行っています。

令和6年に管理開始から50年を迎えました。



位 置	柏崎市高柳町門出(左岸) 柏崎市高柳町田代(右岸)
型 式	重力式コンクリートダム
堤 高	37m
堤 頂 長	170m
総貯水容量	600万 m ³

鶴川ダム（建設）

鶴川下流域の洪水被害の軽減、既得農業用水の安定化、河川環境保全等を目的に鶴川ダムの建設を行っています。

鶴川ダムは岩石類を積み上げて造るロックフィルダムです。堤体の中央に水を通しにくい土（コア）を使用し、その外側にコアを保護する砂利、岩石を配置しています。

平成16年からダムの本体建設工事に着手し、令和5年12月に堤体の盛立が完了しました。

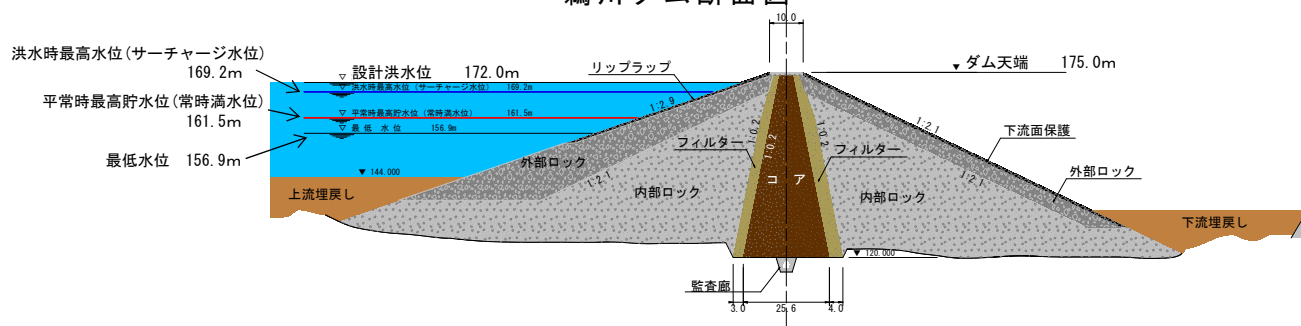
令和9年度の完成を目指し事業を進めています。



鶴川ダム（R7.12月撮影）

位 置	柏崎市清水谷
型 式	中央コア型ロックフィルダム
堤 高	55m
堤 頂 長	267m
総貯水容量	470万 m ³

鶴川ダム断面図



災害から県民の命と暮らしを守るハード対策の強化

土砂災害から地域を守る ～ 砂防事業

土石流対策

成沢砂防えん堤 柏崎市大字黒滝

黒滝地区は、平成16年7月の梅雨前線豪雨により土石流災害が発生し、集落内に多くの土砂が流出しました。このことから、土石流から守るために砂防えん堤を整備しています。

令和7年度の主な事業箇所
成沢（柏崎市黒滝）
沢入（柏崎市佐水）



がけ崩れ対策

苗代地区 柏崎市西山町妙法寺

苗代地区は、斜面勾配33～40度、がけ高30mの地形を有しており、がけ崩れの危険から住民を守るため工事を進めています。

近年発生している集中豪雨等による土砂災害から地域住民の生命と財産を守ります。

令和7年度の主な事業箇所
苗代（柏崎市西山町妙法寺）



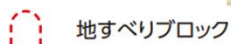
地すべり防止

久木太地区 柏崎市大字善根

久木太地区には住宅・神社・寺院のほか、公民館・県道・鯖石川等公共施設が多数存在し、地すべり発生時の被害は甚大になるため、地域住民の生命、財産を守ることを目的に集水井等の地すべり対策工事を進めています。



久木太地区(a工区)地すべり全体写真



地すべりブロック



集水井



アンカー工



集水井(内部)

令和7年度の主な事業箇所
久木太（柏崎市善根）
石黒（柏崎市高柳町石黒）
西之入（柏崎市山澗）

災害から県民の命と暮らしを守るハード対策の強化 海岸の浸食防止

海岸浸食対策

荒浜海岸 柏崎市安政町

荒浜海岸は、背後に保安林をはさんで、学校や人家が建ち並び、かつては市民の憩いの場として親しまれてきました。しかし、近年の侵食により砂浜が消失し、自然景観が損なわれています。このため、海浜の復元と植生が一体となった親水空間整備を進めています。



※ 人工リーフ

自然の珊瑚礁（リーフ）の波を消す機能をまねて、海岸から少し沖の海底に造成する幅の広い人工的な暗礁です。砂浜海岸の侵食を防ぎ、漂砂を堆積させることで砂浜を復元することを目的としています。

みなとまちの拠点整備

港湾の改修

柏崎港〔鯨波地区〕 柏崎市東の輪町

柏崎マリーナは、平成2年に県内初の公共マリーナとして開港しましたが、冬期間の静穏不足と冬期風浪による漂砂の堆積により、機能が十分に発揮されていない状況となっています。

船舶の水面確保を通年で可能とし、利用度を高めるため、防波堤などの外郭施設の整備を進めています。



県民の暮らしと命を守る道路整備

災害や雪に強い道路づくりの推進

一般国道353号 石黒改良（柏崎市高柳町石黒）

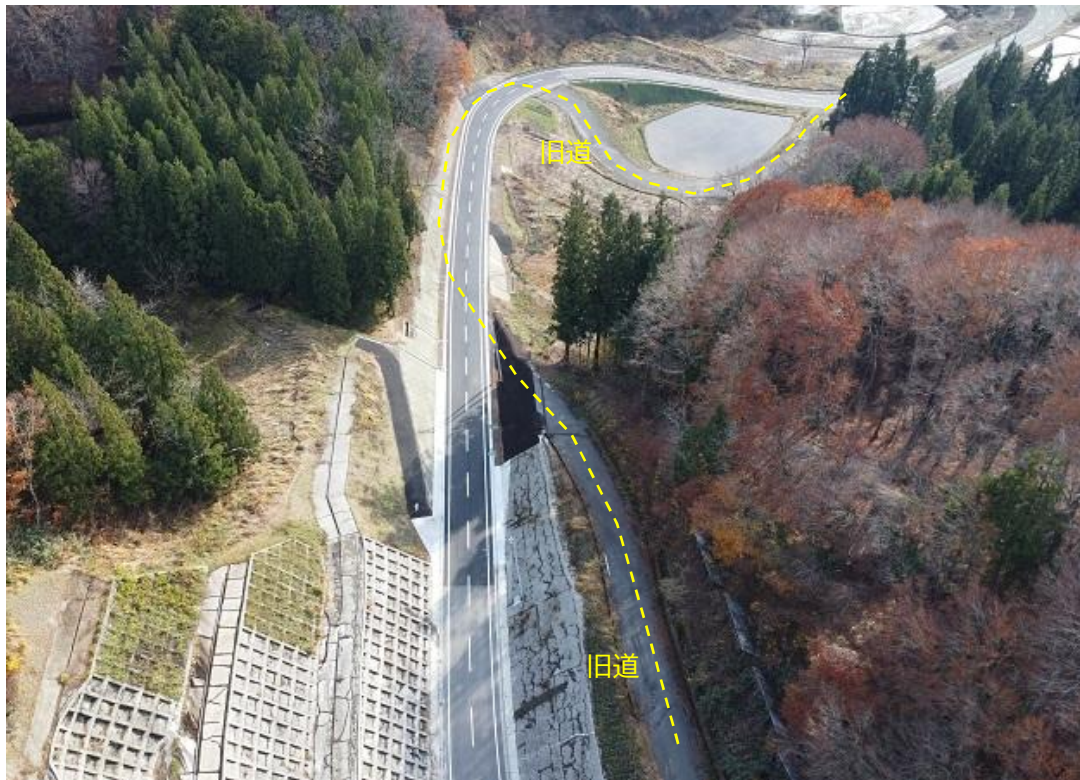
一般国道353号は、沿線住民にとって唯一の生活道路であるとともに、広域市町村圏の中心都市である柏崎市と十日町市、南魚沼市さらに関東圏との広域交通も担っています。

しかし、当地区は緊急輸送道路に位置づけられているものの、幅員が1車線しかなく、急勾配かつ線形不良となっており、さらに県内有数の豪雪地域であることから、積雪時の対向車とのすれ違い困難や除雪作業時の通行止めの発生など、道路交通に著しく支障をきたしていました。

このため、道路の拡幅と線形改良に平成16年度から着手し、令和7年度に全線開通し事業が完了しました。整備により、通年的な道路交通の安全性・信頼性の確保及び緊急輸送道路としての機能強化が図られました。



至 十日町市



至 柏崎市街

令和7年11月撮影

令和7年度の主な事業箇所

- 一般国道353号石黒改良（柏崎市高柳町石黒）
- 一般国道353号折居橋（柏崎市女谷）
- 一般国道252号岡田拡幅（柏崎市高柳町岡田）

県民の暮らしと命を守る道路整備

緊急輸送道路の信頼性の向上

一般国道352号 荒浜改良（柏崎市荒浜）

一般国道352号は、北陸自動車道や国道8号・国道116号の交通機能を補完する重要な路線であり、緊急輸送道路に指定されています。約1kmにわたって住宅が連なる荒浜地区では、道路幅員が狭く、歩道が無いことから、死傷事故の危険性や振動騒音の発生など、生活環境の改善が課題となっています。

このため、平成28年度からバイパスを含む約2kmの道路整備に着手し、生活圏（柏崎市街～出雲崎町・長岡市方面）相互のアクセス性向上や現道区間の生活環境の改善、道路ネットワークとしての信頼性向上を図っています。令和6年度にバイパス区間が開通し、引き続き早期完成に向けて事業を進めています。



県民の暮らしと命を守る道路整備

安全な歩行空間の整備

一般国道252号 安田（柏崎市安田）

通学路や幹線道路などにおいて、歩行者の安全を確保するため歩道の新設や拡幅を行っています。

田尻小学校の通学路となっている当地区は、小学校側の歩道が未整備の区間があり、沿道には商業施設も立地している中、道路の路肩が狭く交通量が多い道路でした。子供たちや地域の人々が安心して歩ける歩行空間を確保するため、平成29年度から歩道整備に取り組んでいます。



令和7年度の主な事業箇所

- 一般国道252号安田（柏崎市安田）
- 一般国道352号松波（柏崎市松波）
- 一般国道353号横山（柏崎市横山）
- 一般国道353号新道（柏崎市新道）

インフラ施設の維持管理・補修・更新の高度化・効率化

日常的な道路の維持・補修

通行の安全確保を図るため、日々、管内の県管理道路において道路パトロールを実施し、危険箇所の早期把握および必要な補修を行っています。

また、安全で安心な道路空間を確保するため、傷んだ舗装や側溝等の補修を行っています。



道路パトロール状況



舗装補修工事状況

道路施設の長寿命化

道路施設(橋やトンネル等)の多くは、1950年代から1970年代の高度経済成長期に建設されており、今後施設の老朽化が急激に進行し、維持費や補修費の増大が予想されます。

将来にわたり道路施設を安全に利用するために、橋梁やトンネル等について定期的な点検を実施し、計画的に補修を行っています。

・道路施設の点検



橋梁点検状況



トンネル点検状況

・道路施設の補修



橋梁の補修状況



トンネルの補修状況

令和7年度の主な事業箇所

・荒谷橋
(県道長岡西山線
柏崎市西山町別山)

・枇杷島跨線橋
(国道352号
柏崎市柳橋町～新橋)

原子力防災の取組 ～ 原子力災害時における避難路の整備

原子力災害時の住民避難を円滑にするため、柏崎刈羽原子力発電所を中心に6方向へ放射状に避難する経路について、道路改良や橋梁の耐震補強などの整備を進めています。



柏崎地域整備部における対策内容と箇所数 (単位：箇所)

方向	路線名	道路改良	橋梁の耐震補強	法面対策等	消融雪施設等
新潟方向	国道352号	—	—	9	1
小千谷・魚沼方向	国道291号	—	1	—	1
十日町・湯沢方向	国道252号	2	3	1	1
十日町 (松代・松之山)方向	国道353号ほか	2	7	4	1
上越方向	国道352号	1	1	—	2
合計	37箇所	5	12	14	6

住民が誇れる地域の個性あるまちづくり

地域の特性を活かした道路整備

柏崎都市計画道路 3・4・25号諏訪町東本町線

柏崎市中心部に位置する「えんま通り」では、毎年6月14～16日に多くの露店が並び、20万人を超える人が訪れる「えんま市」が開催されます。

平成19年7月16日に発生した新潟県中越沖地震では、商店街のほぼ半数の建物が全壊する被害を受けました。

県は、商店街の復興まちづくりを支援するため、平成22年度から道路の拡幅と電線を地中化する事業に着手し、令和元年度に事業が完了しました。

本事業は、大規模災害からの復興、地方都市における商店街の再生事例として高く評価され、令和5年度に第35回全国街路事業コンクール会長賞を受賞しました。商店街や地域の活性化を目的に、道路空間を利用した路上イベントが開催されています。



えんま通りを望む（令和4年）



中越沖地震による被災（平成19(2007)年7月）



事業完了後の状況（令和5年）



路上イベントの開催状況



えんま市の様子（令和4年6月）

雪によるハンディキャップのない地域づくり

冬の生活を支える除雪事業

除雪は、冬期の道路交通を確保するための重要な作業です。機械除雪を主体に消雪パイプなどの施設を有効に利用し、道路交通を確保しています。また、通学路を中心に歩道除雪を行っており、歩行者の安全確保に取り組んでいます。



車道除雪



歩道除雪

雪崩発生の恐れがある斜面では、人力や機械での雪庇（せっぴ）処理や雪崩防止柵等を設置しています。また、地吹雪等による視界不良や吹き溜まりを防止するため、吹止柵を設置し、冬期道路交通の安全を確保しています。



雪庇処理



吹止柵

令和7年度 主な事業箇所 主要地方道 鯨波宮川線 柏崎市平井～矢田（吹止柵工）
--

建設産業の理解向上に向けた情報発信

担い手確保の取組 ～建設業・土木の魅力PR～

建設業・土木の魅力を伝えるため、建設関係団体や地元関係者等と協力し、現場見学会やイベントなどを行っています。



土木出張PR



箆橋(おさばし) 現場見学会



鵜川ダム 建設現場見学会



土木出張PR (測量体験)

地域活動への支援

うるおいの郷土はぐくみ事業

県が管理する施設の一定区間を対象に、日常的なゴミ拾いや草刈り、歩道除雪などの地域活動に関して、消耗品の購入や保険への加入などに要する費用を助成しています。



道路法面の草刈り



歩道の除雪



河川堤防の草刈り



河川堤防の伐木

登録有形文化財・選奨土木遺産 栃ヶ原地すべり集水井

柏崎市高柳町栃ヶ原地区では、1860（安政7）年の地震により発生した亀裂に融雪が流れ込み大きな地すべりが発生したとされています。その後も地すべりは繰り返し発生し、1951（昭和26）年に新潟県が行った調査では、1年間で1mほどの動きが確認されています。

新潟県の技術者 湊元光春技師は、地すべり集水井を設計し、1955（昭和30）年に日本で初めて「栃ヶ原地すべり第1号集水井」が建設されました。

1965（昭和40）年には、栃ヶ原地すべり第2号集水井、第3号集水井が建設され、現在までに12基の地すべり集水井が栃ヶ原を地すべりから防止し続けています。

2019（令和元）年には、「第1号集水井」が日本で初めて建設された集水井であり、全国6千基以上ある地すべり集水井の基本となり造形の規範となっているとして、また「第2・3号集水井」が国土の歴史的景観に寄与するとして、国の登録有形文化財（建造物）に登録されました。

また、2020（令和2）年には、「第1号集水井」が日本初の地すべり集水井として地域の防災に寄与・発展に貢献してきたこと、新潟県の技術者が集水井を開発し全国へ普及する契機となったことから、土木学会の選奨土木遺産にも認定されました。

当部では、栃ヶ原地すべり集水井を広く知っていただくため、パンフレットの作成や見学会等を開催し、施設の役割や特徴を発信しています。



施設見学会の様子

みなとまち海浜公園・柏崎港（柏崎港湾区域）

柏崎港湾区域のみなとまち海浜公園は、毎年7月26日に開催される「ぎおん柏崎まつり 海の大花火大会」のメイン会場になっています。

また、柏崎市によりキャンプ・BBQが楽しめる「かしわざきセントラルビーチ」が2020年よりオープンしており、柏崎港（番神海水浴場）では『番神自然水族館』が開催されています（夏季のみ）。



「ぎおん柏崎まつり 海の大花火大会」



「番神自然水族館」



みなとまち海浜公園内の「かしわざきセントラルビーチ」

表紙の写真

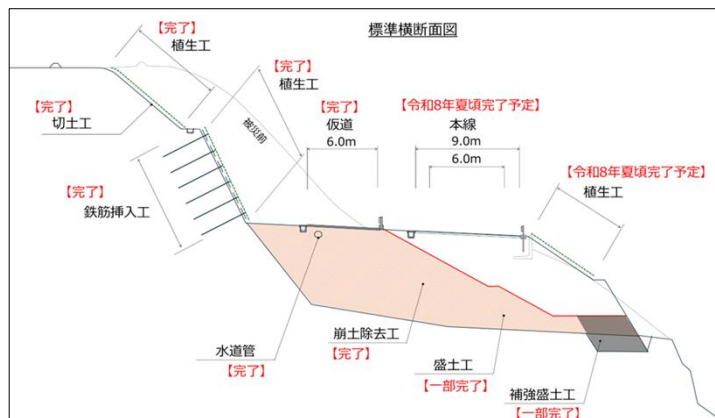
上段：主要地方道 松代高柳線 道路災害復旧工事（柏崎市高柳町門出）

柏崎市高柳町門出地内では、急激な雪解けの影響により、令和7年3月26日に県道の崩落が発生しました。

早期の通行止め解除に向けて地質調査や工法の検討を進め、6月から復旧工事に着手し、11月28日には仮道による交通開放を行いました。全面的な復旧は、令和8年夏頃の完了を予定しています（令和8年11月撮影）。



道路崩落状況（令和7年3月28日）



標準横断面図（令和7年11月時点）

下段：一般県道 黒部柏崎線 箴橋更新事業（柏崎市春日）

箴橋（おさばし）は、幅員が狭く老朽化が進行していたことから、令和元年度より架け替え事業に着手しました。令和7年度には、橋への親しみを深め、開通を楽しみにしていただくことを目的に、施工業者が床版お絵描きイベントを開催しました。地元の榎原小学校の児童が、「みんなのまち」などをテーマに橋の上に自由に絵を描きました。新しい橋の開通は、令和8年夏頃を予定しています（令和7年10月撮影）。



「トッキッキ」
新潟県のマスコットキャラクター
令和7年11月、20歳になりました。



「こめゆきくん」
土木部のマスコットキャラクター
普段も災害時も、みんなの役に立てるようにがんばっています。

SDGsの推進

SDGsとは、「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」のことです。

社会が抱える問題を解決し、世界全体で2030年を目指して持続可能な未来を作るための17のゴールと169のターゲットで構成されています。

当部では、SDGsの達成に向け、各取組を積極的に推進し、業務に当たります。

- 持続可能で自然豊かな地域づくり＝防災・減災を推進し強靱化
- 脱炭素＝DX推進でさらなるCO₂排出削減
- 地域に安全・安心を届ける＝情報発信の強化
- 地域と密着した社会基盤づくり＝都市との連携、建設産業の活性化・担い手確保
- WLBの実現＝休暇取得と在宅勤務の促進



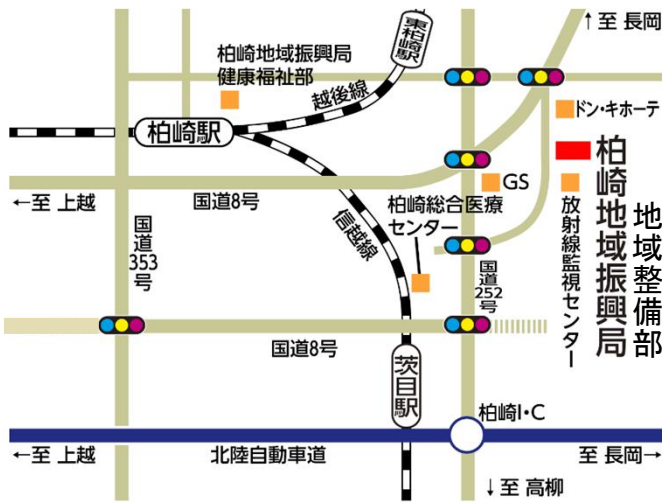


業務の担当

所属名	課名	業務内容	連絡先 (0257)
地域整備部	総務課	総合案内、各部間の連絡調整、地域危機管理体制、庁舎管理	21-6203
	業務課	事業予算の執行・管理、工事・委託の入札・契約事務	21-6305
	用地・行政課	用地買収及び物件等の損失補償	21-6315
		道路・河川・港湾等の管理・許可	21-6311
	計画調整担当	事業計画・調整、広報	21-6321
	維持管理課	道路施設の維持及び修繕、道路パトロール	21-6324
		施設点検、橋梁補修、災害復旧	21-6327
	道路課	県管理国道、県道の整備、歩道整備	21-6330
	治水・港湾課	河川の整備、改修、管理、災害復旧	21-6335
		砂防・地すべり・急傾斜地、港湾・海岸施設の整備、改良、管理、災害復旧	21-6337
ダム建設課	鶴川ダムの建設事業に関すること	21-6339	
ダム管理課 (鯖石分室)	鯖石川ダムの管理に関すること	41-2070	
土木部 技術管理課 (地域整備部駐在)	土木工事検査員	土木工事の検査、安全対策	21-6303

案内図

地域整備部
〒945-8558 柏崎市三和町5-55



地域整備部 ダム管理課 (鯖石分室)
〒945-1514 柏崎市高柳町田代1553-1



港カード (柏崎港) を配布しています

- 来訪者 1 人につき、1 枚を配布します
- ①配布場所：柏崎地域振興局地域整備部
配布日時：8時30分～17時
(土日・祝日・年末年始を除く)
 - ②配布場所：柏崎港観光交流センター「夕海」
配布日時：10時～17時 (4月下旬から10月末までの期間営業、火曜定休)



ダムカード (鯖石川ダム) を配布しています

- 来訪者 1 人につき、1 枚を配布します
- 配布場所：鯖石川ダム管理所
配布時間：8時30分～17時
(土日祝日を含む毎日)
- 業務の都合によりお渡しできない場合があります。

